

令和7年度全国学力・学習状況調査結果概要について

平素は、本校教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。令和7年4月中旬に実施しました「全国学力・学習状況調査」結果の概要及び今後の本校における取組等について、下記のとおりお知らせします。

記

1. 実施目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るため。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるため。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するため。

(「令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要項」より)

2. 調査対象・実施日 第6学年・令和7年4月17日(木)国語・算数・理科

令和7年4月21日(月)生活アンケート

3. 調査の内容

(1) 教科に関する調査「国語」「算数」「理科」

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおり。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力等。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査。

(「令和7年度全国学力・学習状況調査に関する実施要項」より)

4. 調査結果の取扱い

- 調査結果の分析・検証を踏まえ、本校の教育指導等の改善に向けて、計画的に取り組みます。
- 家庭や地域とも成果・課題を共有し、改善につなげるものとします。
- 調査結果は、中学校区でも共有し、共通で取り組める内容について検討・実践していきます。

調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえ、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要であること。

(「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の取扱い及び調査結果の活用について
(文部科学省 通知)より」)

5. 調査結果の概要（ダイジェスト版）

本校の「強みのみられる内容」

- ◇どの子も最後まであきらめず、問題を解ききろうとする意欲。
- ◇日頃の調べ学習や説明文の読解の際に、文章と図表などを結び付けて読むことの定着。
- ◇基本的な計算や定義の理解。
- ◇仮説、実験から考察することで、より深い学びにつながった。
- ◇学校が、自分の気持ちや自分の思いなどを教職員や学級の仲間へ安心して伝えることができ、それを受け止めてもらうことができる場所となっている。

本校の「課題のみられる内容」

- ◆説明文や問題文に書かれている内容の意図や目的の理解。
- ◆複数の情報を整理、理解し、処理する力。
- ◆自分の考えを伝える際に、工夫をして書いたり、発表したりする力。
- ◆基本的な学習内容を拡張、応用させた問題への対応力。
- ◆家庭での読書量と、学習時間の少なさ。新聞等を読まないことからくる活字にふれる機会。

※上記のダイジェスト版についての詳細は、次の「調査結果の分析・考察・以後の改善点」をお読みください。教科（国語、算数、理科）及び質問調査（アンケート）にそれぞれ分類して記してあります。

6. 調査結果の分析・考察・以後の改善点

（1）教科に関する調査について

「国語科」

【成果（強みのみられる問題・内容）】

◇今年度の国語の問題にて、本校の強みとして顕著に表れたのが下記の3つです。

- ①「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」という問題において、本校児童の正答率は、全国の正答率を7ポイント上回っています。自分の目的や意図に応じて、相手から聞きたいことを引き出すためには、集めた材料を分類したり関係付けたりして、どのようにインタビューを進めたらよいかを考えることが重要です。話し合いの中での発言を受けて、複数の質問を関連付けて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出せることに気付き、正答を選ぶことができていました。
- ②今年度は記述式の問題が2問出題され、そのうちの1問が、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」という内容のものでした。この問題において、本校児童の正答率は全国平均正答率を8.4ポイント上回りました。正答率だけでなく、誤答だった13.7%の児童の解答についても細かく分析してみると、記述の際に指定されている2つの条件のうち1つを満たせていないものの、「必要な情報を見付けること」はできている児童が約半数以上いました。このことから、多くの児童が日頃の調べ学習や説明文の読解の際に、文章と図表などを結び付けて読むことが定着してきていることがうかがえます。
- ③今年度の国語の分析結果において、最も本校児童の強みとして挙げられるのが昨年と同様の「無解答率」の低さです。全14問のうち、9問は無回答率が0%であり、特に前半は集中して取り組んでいたことがうかがえます。日々、課題に対して向き合う際に、一人ひとりの児童がしっかり考え、課題をやりきる経験を積み重ねたことが、大きな成果につながったものと考えます。

【課題のみられる問題・内容】

◆今年度の国語で全国平均正答率と比べて、全体的に5ポイント下回る結果となりました。本校の課題として挙げるのが下記の3つです。

- ①「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる」という問題においては、全国の正答率と比べると、本校は13ポイント下回る結果になりました。聞くことにおいて、自分はどのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように生かそうとしているのか、そのためにこういった情報を相手から引き出そうとしているのかなどを明確にして聞くことが重要であり、その力を問われていました。しかし、誤答の傾向をみると、「話の内容を捉えることができるかどうか」以前に、発問で問われている箇所に戻って読み直した際に、質問の「目的」を問われているのに、問題文の文体が質問形態であることから、「質問」という言葉が入っている選択肢を選んでしまうなど、文

章を細かく読み解けていないことがうかがえます。また、正答の選択肢に入っている「具体的」という言葉の意味をうまく理解できていないことから、語彙力不足が原因の一つであると考えられます。

- ②「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」という問題においては、全国の正答率と比べ、本校は約 15 ポイント下回っています。この問題は、聞くことにおいて、話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や差異点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめる力が問われていました。しかし、ここでも誤答の傾向を分析していくと、設問で問われている傍線部（ア）と（イ）を見間違えて答えてしまっていたり、傍線部（イ）のすぐ後の文章から判断してしまっていたり、設問で問われている内容を正確にとらえて解答することができていなかったことが分かります。
- ③「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」という問題においては、全国の正答率と比べ、本校は約 15 ポイント下回っています。文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることが重要ですが、必要な情報は目的に応じて変わるため、読む目的を明確にして内容を捉える力が求められます。この結果から、書かれている内容のアウトラインを捉えることはできますが、文章を目的に応じて丁寧に読みこんだり、細かく論理的に考えることに課題があると分かりました。

【課題改善に向けての今後の取組み】

- 昨年度に引き続き、本年度も無解答率の低さは全国の結果を上回るものであり、ほぼ全員が最後まで問題を解き切ることができていました。問題に対し最後まで向き合い、解き切るという力は、これから先も本校の強みとして継承できるようにしていきます。そのためにも通常の評価テスト以外の問題（過去問等も活用）にもチャレンジさせるなど引き続き対応していきます。
- まとめる際の基準や目的をとらえることができていない児童や、複数の情報から必要な情報を見つけ出すことが苦手な児童もいるので、国語のみならず、すべての教科において、情報収集力を高めることができるよう、自分がどのような情報が必要なのか、必要な情報を得るために最適な調べ方を一人ひとりが正しく選択できるように指導を進めていきます。その際に、日々の授業の中や、調べ学習などで効果的に思考ツールや情報カードを活用することで、適切な情報処理能力や表現力の向上につなげていきたいと考えています。
- 自分の考えを相手にわかりやすく伝えるために、集めた情報をただ書き写すだけでなく、そこから考えられることや、自分なりの解釈・意見についても自分の言葉でまとめるように指導していきます。その際に、事実と意見・感想を混在させないように働きかけることも行っていきます。
- 書くことに対する苦手意識がある児童に対しては、書く活動に入る前に、何を書くのか（内容）、どのような順序で書けばよいのか（構成）、誰に伝えるのか（相手意識）、などを明確にすることを示し、進めていくようにします。

「算数科」

【成果（強みのみられる問題・内容）】

◇今年度の算数の問題にて、本校の強みとして顕著に表れたのが下記の3つです。

- ①昨年度に引き続き、本年度も無解答率の低さは全国の結果を上回るものでした。無解答率は、全 16 問中 12 問において、大阪府の平均を下回る結果となりました。そのうち 5 問は、無解答率 0%です。間違いを恐れず、粘り強く答えを導き出そうとする、丹比小学校児童の良さの1つである意欲の高さが見られました。
- ②領域別正答率では、A. 数と計算、D. データの活用に関しては、大阪府の平均には届かなかったものの、他領域（B. 図形、C. 測定、変化と関係）と比べて、やや正答率の高い結果でした。
- ③A. 数と計算領域において、基本的な計算問題は正答率が比較的高い傾向があります。また、表やグラフ、図や表、文章等の内容を関連付けて身近な題材を取り上げた問題をとらえ、それをもとに粘り強く考えようとする姿勢が見られました。

【課題のみられる問題・内容】

- ◆今年度の算数で、全国平均正答率と比べて、全体的に 8 ポイント下回る結果となりました。領域別では、C. 測定と B. 図形に関して、全国平均正答率と比べて、9.2 ポイントと大きく下回っています。また、解答方法における「記述式解答」に関しても課題が見られました。選択式正答率は 57.7%、短答式正答率は 58.0%であることに対して、記述問題の正答率は 27.5%でした。これらをふまえて、本校の課題として挙げるのが下記の3つです。

- ①「D. データの活用」領域の「簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる」問題においては、本校は全国の正答率と比べ、約 15 ポイント下回っています。正答を複数選択しなくてはいけないのに 1 つしか選択できていなかったり、桁数を読み間違えたりする誤答がありました。このことから、問題文や図表を正確に読み取ることに課題があるとわかりました。また、この問題においては、無回答率が全国平均より 2.5 ポイント上回っており、何を答えたら良いかわからない児童もいたと考えられます。
- ②「B. 図形」領域の「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題においては、本校は全国の正答率と比べ、約 11 ポイント下回っています。基本図形に分割することは理解できても、分割した一方の面積だけを求めて解答したり、基本図形に分割していることを理解できずに解答したりする誤答が多くありました。このことから、面積を求めるために必要な情報を自ら選び出し、二つの図形の面積のそれぞれの求め方を、筋道を立てて考え、記述することに課題があることがわかりました。
- ③「C. 変化と関係」領域の「『10%増量』の意味を理解し、『増量後の量』が『増量前の量』の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる」問題においては、本校は全国の正答率と比べ、約 11 ポイント下回っています。「10%増量」について、百分率で表された 10%を 0.1 ととらえることはできていますが、増量後の量が 1.1 となることをとらえていなかったり、百分率の 10%をそのまま 10 と解答したりする誤答が多くありました。このことから、ある二つの数量関係の表し方と、別の表し方の表現に課題があることがわかりました。

【課題改善に向けての今後の取組み】

- 読む、書く、考える、伝えるといった基礎基本の力の定着をはかります。
- 異分母分数の加法（計算）、プッシュ回数の関係（比例関係）の問題における正答率はとても高い結果でした。また、無答率の低さからして本校児童の学習に関する意欲や基礎的な事柄については、概ね評価できると考えられます。しかし、すべての領域において、全国の平均に届いていないということから、算数に関しては大きな課題があると言えます。丹比小学校児童の意欲の高さ、粘り強さにより目を向けさせ、自信を持って普段の授業に取り組めるように努めます。
- 全体の底上げのための授業の工夫が必要と考えます。各単元、各授業において、めざす子どもの姿からつきたい力、各々に必要な支援、課題を考え、児童が見通しを持って課題に取り組めるよう授業を工夫していく必要があると考えます。
- 日常の授業から子どもたちの思考力、表現力を育成し、数式や数だけで答えるのではなく、文章表記で表現する場面を設定します。算数科以外でも、ノート等の指導に力を入れ、思考力、表現力の向上を意識した授業をしていきたいと考えます。

「理科」

【成果（強みのみられる問題・内容）】

- ①「エネルギー」を柱とする領域の問題は 4 問出題されていましたが、無回答の児童がほぼおらず、全国平均を大きく上回る問題もありました。特に正答率が良かったのは、電磁石の問題です。「電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数を増やす」という問題については、全国平均を 5 ポイント上回っていました。また、「乾電池 2 個のつなぎ方において、直列につなぐことで、電磁石を強くすることができる」という問題については、全国平均を約 10 ポイント上回っていました。電磁石の学習では、既有的知識から根拠ある予想や仮説を発想したり、解決の方法を発想したりするなど、自分の考えをもつことを大切にしたい授業展開を行ってききました。その上で実験を行い、見て、考えたことを言葉で表現し、考察を行うことで、より深い理解へとつながっていったと考えます。
- ②「地球」を柱とする領域の問題については、全国平均を約 2 ポイント上回っていました。その中でも、「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかをみる」問題については、全国の正答率を 6 ポイント上回り、正答率が高かった問題といえます。水の状態変化の学習では、実験結果を考察する際に、表やグラフなどに整理する活動を設け、結果を比較したり、複数の結果から多面的に考えたりして、自分の考えを表現できるようにしました。具体的な数値を基に、より妥当な考えをつくりだす学習活動が、正答率に結び付いたと考えます。

【課題のみられる問題・内容】

- ①全国平均正答率を大きく下回ったのが、「電気を通す物と通さない物でできた人形を使った電気の回路のつくり方」の問題でした。全国的に見ても正答率が半数を下回る問題ではありましたが、本校は全国

平均正答率よりも約 17 ポイント下回りました。

- ②「ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ」問題は、全国平均正答率を約 14 ポイント下回りました。プレパラートを動かすことで見えるものが変わることは 85%以上の児童が理解していましたが、ピントを合わせるために、調節ねじを回すことが理解できていないため、誤答が多い結果となりました。
- ③令和 7 年度全国学力・学習状況調査理科の問題には記述式の問題が 2 問ありました。無回答率が多かった問題はその 2 問で 10%を超えていました。「レタスの種子の発芽の条件について、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかをみる」記述式問題が、正答率 15.7%と令和 7 年度全国学力・学習状況調査理科の問題の中で最も正答率の低い問題でした。

【課題改善に向けての今後の取組み】

- 理科の学習では、さまざまな実験器具を扱っていきます。しかし、その実験器具の中には、使用頻度が少ないものもあります。今回出題された顕微鏡は、5 年生の「魚のたんじょう」ではじめて使用し、花粉の観察の時も使用しました。顕微鏡の学習においては、部品の名称を覚え、使い方を学んでいかなければいけません。実験器具の使い方を覚え、慣れていくためには、手に触れ体験させていくことが必要不可欠であり、時間の確保が欠かせません。実験、観察の授業では、安全への配慮はもちろんのこと、時間にゆとりをもち、児童一人ひとりが実験器具に触れ、使用する場面を設けていきます。
- 「電気が通る回路の作り方」に関する問題の誤答をみると、「電気を通さない持ち手」が回路の一部に含まれると、回路が途切れ電気を通すことができないと理解し表現することができていないと考えられます。図から想像し、問題を理解していくためには、学習活動の応用として、ものづくりなどの体験をさせていくことが大切であると考えます。得た知識の理解を深めるためにも、自ら試行錯誤した後、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正する学習活動を取り入れていきます。
- 自らの考えを自らの言葉で表現する活動は、毎回の授業の中で取り入れています。理由付けも既習内容や身の回りの自然の事物・現象に当てはめながら考えていくことを指導しています。しかし、記述式の無回答率が高いのが現状です。「自らの考えを表現する」だけでなく、「具体的な条件に着目し、問題を見い出す」力を日々の授業の中でも取り入れていきたいと考えます。そのためには、まず自然の事物・現象に働きかけて得た事実を比較し、差異点や共通点を捉えさせ、その上で問題を見い出す活動を行います。その積み重ねが、新たな問題を見いだし、表現できる児童の育成につながっていくと考えます。

(2) 質問紙調査について

※児童質問紙調査は、全 71 問があり、本年度の主な調査項目は、以下のとおりです。

「児童の生活状況」「挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等」「地域や社会に関わる活動の状況」「ICT を活用した学習状況」「主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」「学習に対する興味・関心や授業の理解状況」等

【成果（強みのみられる問題・内容）】

- ◇困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。
(肯定的意見・・・本校：76.9%，全国：70.6%)
- ◇先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。
(肯定的意見・・・本校：92.3%，全国：92.2%)
- ◇あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか。
(肯定的意見・・・本校：86.5%，全国：83.3%)
- ◇5 年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。
(肯定的意見・・・本校：82.7%，全国：77.8%)

【課題のみられる問題・内容】

- ◆あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。(雑誌、新聞、教科書は除く)
(「10 冊以下」の割合・・・本校：42.3%，全国：15.1%)
- ◆学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日まで)、1 日当たりどれくらいの時間、読書を

しますか。

(10 分以下+全くしない・・・本校：57.7%、全国 46.6%)

- ◆5 年生までに受けた授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。

(肯定的意見・・・本校：57.7%、全国：68.6%)

- ◆国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか。

(肯定的意見・・・本校：69.2%、全国：81.8%)

【課題改善に向けての今後の取組み】

- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」の回答や「先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。」の回答より、学校が、自分の気持ちや自分の思いなどを教職員や学級の仲間へ安心して伝えることができ、それを受け止めてもらうことができる場所となっていることがうかがえます。これは、全教職員が、児童の困り感や不安などに寄り添い、支援していこうという想いが伝わっている成果だといえます。また、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか。」の回答からも、学級でも互いの意見を受け入れ合うことができていると考えられます。今後も引き続き、教職員も児童同士も互いに認め合い、安心して過ごせるよう、「自己肯定感」を高める取組みを行っていきます。
- 「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。(雑誌、新聞、教科書は除く)」への「10 冊以下」と回答した児童が 40%以上であったり、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日まで)、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。」への「10 分以下+全くしない」と回答した児童が半数以上であったりすることから、本に触れる機会や読書に親しむ時間が全国と比べても少ないことが分かります。学力を高めるために、本や読書を通して、語彙力や表現力、創造力を高めることは効果的です。本校では、毎日の朝読や学校司書が中心となって進める読書指導だけでなく、昨年度に引き続き、「ホンツナ」の取組みも行い、保護者や地域の方を招いての読み聞かせなどを通して、児童の読書意欲を増進させ、より多くの本と出会うことで語彙力、表現力を向上させていきます。
- 「5 年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。」では、80%以上が肯定的に回答していることから、自分の考えをまとめる経験をしていることは分かります。しかし、「5 年生までに受けた授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」や「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか。」では、肯定的意見がどちらも全国と比べ、大幅に下回っています。自分の考えを伝える際に、工夫をして書いたり発表したりすることの難しさを感じられます。これは、各教科の課題にも直結することです。日々の授業で、表現する目的や条件などを設け、見通しを持ちながら自分の考えを自分の言葉で表現する機会を持ち、工夫して表現する力の向上につなげていきます。